

NEWS RELEASE



帝国ホテル
大阪

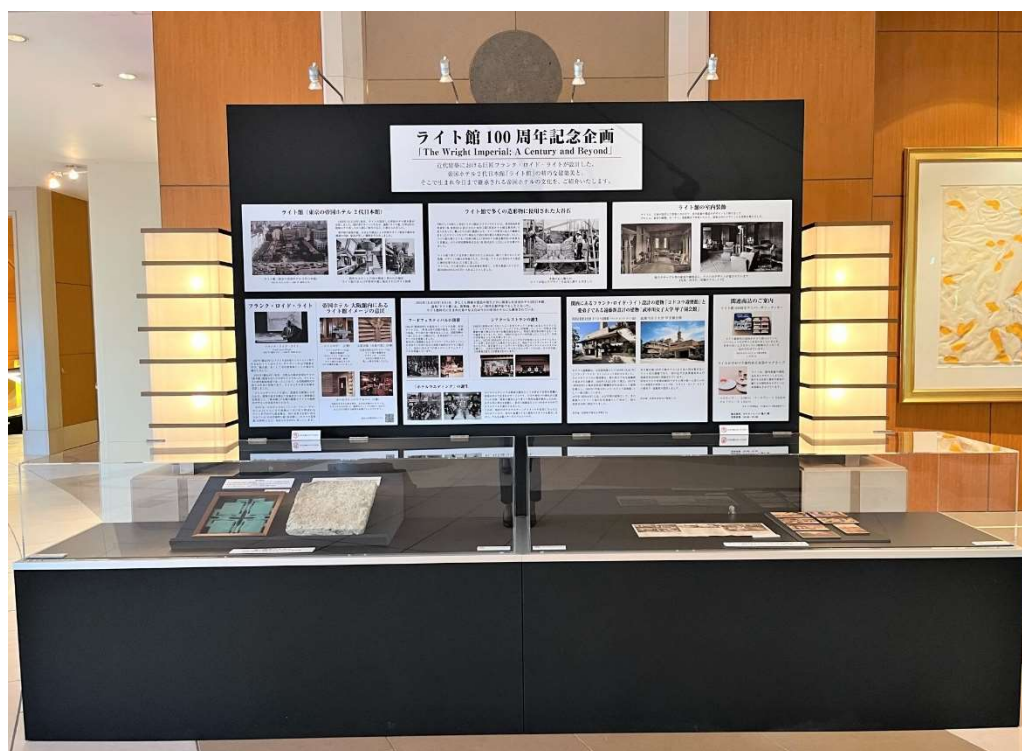
<http://www.imperialhotel.co.jp>

2022年9月26日

建築家 フランク・ロイド・ライトが設計し、
1923年9月1日に開業した帝国ホテル2代日本館

「ライト館」開業 100 周年記念企画

ライト館を紹介する展示やオリジナルクッキーを販売



パネル展示「ライト館 100周年記念企画」 (1階宴会ロビー)

帝国ホテル 大阪(総支配人:幸田雅弘、大阪市北区)は、フランク・ロイド・ライト設計の2代目本館(通称:ライト館)が来年、2023年に開業から100周年を迎えることを記念し、ライト館に関する展示を、1階宴会ロビーにて実施しており、10月1日(土)からは「ライト館100周年アニバーサリークッキー」を地下1階「ホテルショップ」にて販売します。

なお、ライト館に関する展示は、帝国ホテル 東京でも9月1日(木)から開催しております。



20世紀を代表するアメリカの建築家フランク・ロイド・ライトが手がけた「ライト館」は1923年(大正12年)に竣工し、1967年(昭和42年)まで44年間営業を続けました。「ライト館」は大谷石・テラコッタ・スダレ煉瓦(スクラッチタイル)が複雑かつ繊細に組み合わせられたデザインで、その美しさから“東洋の宝石”と称されました。中央に池を配した正面玄関のシンメトリーな構造は、圧倒的な存在感であったと言われていました。また、パーティー、舞踏会、結婚披露宴などの宴の舞台として、日本の社交文化の創造に寄与しました。100年近く経つ現在も、ホテル内の各所に「ライト館」当時の意匠が遺されています。

ライト館開業100周年記念企画の概要は次の通りです。

■「渋沢栄一とライト館」パネル展示／1階宴会ロビー

近代建築における巨匠 フランク・ロイド・ライトが設計した、帝国ホテル2代目本館「ライト館」の精巧な建築美と、そこで生まれ今日まで継承される帝国ホテルの文化を、1階宴会ロビーでご紹介いたします。

- 場 所： 1階宴会ロビー
期 間： 2023年8月31日(木)まで ※予定
展示内容： ・フランク・ロイド・ライトについて
・ライト館時代に生まれた様々な文化
・ヨドコウ迎賓館／甲子園会館 など
※鑑賞無料

■ライト館 100周年アニバーサリークッキー／「ホテルショップ」地下1階

フランク・ロイド・ライトを招聘した総支配人 林愛作から、ライト館の新食堂用に壁画を依頼された繁岡ケンイチは、宴会場「孔雀の間」の壁画やホテルオリジナルのマッチ、パンフレットなどのデザインも行いました。アニバーサリークッキーは、その繁岡によるパンフレットのデザインを缶と葉にあしらった商品です。世界各国の賓客をお迎えしてきた帝国ホテルが世界のおいしさをテーマに作った8種類のクッキーを詰め合わせました。



販売期間：10月1日（土）～

営業時間：10:00～19:00

価格：4,320円

また、ホテルショップでは、ライトが手掛けた鮮やかな色彩と幾何学模様が織りなす個性的なデザインのテーブルウェアも販売しております。

- ・マグカップ 3,300円
- ・ケーキプレート 3,850円
- ・タルトプレート 4,950円

※1個あたりの販売価格です。

※価格は全て消費税込。



<お問い合わせ先>

ホテルショップ（地下1階）

TEL. (06)6881-4878（直通 10:00～19:00）

■「ライト館」開業100周年記念カクテルコンペティションを開催

ライト館開業100周年を記念し、社内でカクテルコンペティションを実施いたします。“東洋の宝石”をテーマに創作するカクテルとノンアルコールカクテルの最優秀作品を、来年1月より、メインバー「オールドインペリアルバー」とカジュアルレストラン「カフェ クベール」にてご提供いたします。

【ご参考】

● 帝国ホテル 2代目本館（通称：ライト館）

帝国ホテルは1890年（明治23年）11月3日、現在と同じ東京・日比谷の地に開業しました。当時としては最高の設備を誇るものでしたが、大正時代に入り欧米から来日する外国人が増加する一方で、建物や設備が老朽化していたため、新館建設が必要になりました。

当時の支配人、林愛作は、米・ニューヨークでの古美術商時代に浮世絵の収集が縁で知遇を得た建築家 フランク・ロイド・ライトに設計を依頼、1916年（大正5年）の臨時株主総会でライト設計・施工による新館建築案が可決されました。新館は1919年（大正8年）に着工し、1923年（大正12年）に竣工。鉄筋コンクリート及び煉瓦コンクリート構造の地上5階、地下1階、延床面積10,535坪、客室270室を持ち、大谷石、スクラッチタイル、テラコッタなどを構造材及び外・内装材に用いていました。9月1日の落成式当日に関東大震災に遭遇したものの幸い建物の被害は軽微で、期せずして新館の耐震・耐火構造を証明することとなりました。

開業後は、ダンスパーティーやディナーショーなどの新しい文化やサービスを広めたほか、国内外の賓客を迎え、歴史的に重要な出来事の舞台となったことも多々ありました。また、その建築美から「東洋の宝石（The Jewel of the Orient）」と称され、多くの方々に親しまれました。そして、東京五輪を経た1967年（昭和42年）、耐震性等の問題から建て替えのために閉鎖し、惜しまれながらも44年の歴史に幕を下ろしました。現在、その正面玄関部分が愛知県犬山市の博物館明治村に保存・復元されています。

- **フランク・ロイド・ライト (1867-1959)**

米国の建築家で、プレーリースタイル（草原様式）と呼ばれる、低く、水平線を強調した設計で知られる独自のスタイルを築きました。1916年、帝国ホテル支配人、林愛作の依頼で、ホテル新館建設のために来日、帝国ホテル以外にも日本国内にいくつかの作品を残しました。70年にわたるキャリアの中で1,100件を超えるデザインを手がけ、半数近くが実際に作られたといわれています。それらには、ビルや住宅などの建築物だけでなく家具や照明器具なども含まれており、ライト館においても彼のデザインした椅子やテーブル、照明が建物と併せてその世界観を醸し出しています。